

第6回（2013年度）

関西クラブラグビーフットボール トーナメント大会

実 施 規 約

本大会は、単に競技力を競うだけでなく、組織力・運営力などを含めたクラブの向上を目的と考えています。
各ブロックより選ばれたクラブが参加し、協力し、競い合う中で、関西協会内全てのクラブの目標・模範となるような大会を目指しています。
各々のクラブには、府県の代表としての自覚を持ち、各ブロックの代表である責務の実践をお願いします。
大会実施要項・規約を十分に理解し、参加クラブ全員で大会運営を行いましょう。

大会実施規約

1. 試合毎に必要な選手以外のスタッフ

(1) 大会運営及び試合進行を円滑に進めるため、参加各クラブは選手以外に必要なスタッフを、試合毎に下記の通り選出しなければならない。

①試合責任者	(必須)	1名	クラブの全責任者
②交替指示者	(必須)	1名	試合責任者との兼務可
③セーフティーアシスタント	(必須)	1名	有資格者
④記録係	(必須)	1名	
⑤ボール係	(必須)	2名	
⑥水係	(任意)	3名以内	
⑦チームドクター	(任意)	1名	

(2) 上記スタッフは選手（リザーブ含む）との兼務は出来ない。またスタッフ間の兼務も出来ない。

(3) 上記スタッフは、レンタル等の手段により自クラブ以外の者を選出することができる。但し、クラブはその行動の全てについて責任を負うものとする。

競技に関する諸注意事項

1. 選手登録の方法

- (1) この大会の選手登録人数は2013年度に日本協会へ競技者個人登録を完了した者で「スポーツ安全保険」に加入している者の中から人数制限なく登録できる。
- (2) 大会期間中に登録した選手を変更、追加、入替することは出来ない。申込時点

で登録した選手のみに出場資格がある。

- (3) 個人登録番号は、競技者個人登録の手続きをする際に各チームが付番した番号である。協会からされるものではないので十分注意すること。
- (4) 試合ごとの登録選手は22名以内とする。試合会場到着時に大会本部受付へ「メンバー表」を提出する。

2. 選手の交替・入替え（競技規則第3条等参照）

- (1) 選手の交替・入替えは、「競技規則」の定めるところによる。（以下略説）
 - i チームが19～22名の選手を指名する場合には、少なくとも5人はフロントローとしてプレーできる選手でなくてはならない。
 - ii チームが16～18名の選手を指名する場合には、少なくとも4人はフロントローとしてプレーできる選手でなくてはならない。
 - iii 試合中、十分適切にフロントローとして訓練を受けた選手がいなくなった場合には、安全対策の見地からノンコンテストスクラム（模擬スクラム）により試合を続行するが、勝敗は得点通りとする。
 - iv 選手の交替（医師または医務心得者からプレー続行不可と勧告のあった場合）は、7名まで。
 - v 選手の入替えは、フロントローは2名まで、その他は5名まで。
 - vi 入替わった選手は、その試合に再出場することは出来ない。但し、以下の場合を除く。
 - ①出血した選手の一時的交替の場合。
 - ②フロントローとしてスクラムが組める選手が他になくなった場合。
- (2) 出血のための一時的交替は15分以内とし、それを越えた場合には正式交替として取扱う。
- (3) コンタクトレンズ装用にかかる一時的交替は認めない。
- (4) 交替、入替え、出血の手当てをする間の一時的交替は、必ずチームの「交替指示者」が第3ARの指示に従って行うこと。
交替指示者以外の者が交替を申し出ても受け付けない。
- (5) レフリーの許可なく入退出した場合には、「競技規則」の不行跡として罰せられる。

3. シンビン、退場（競技規則第10条等参照）

- (1) シンビン（一時的退出）となったプレイヤーは、ハーフウェイライン付近の所定の場所に位置しなければならず、レフリーが許可するまで、フィールド・オブ・プレーに入ってはならない。その間、チームコーチ等と接触してはならない。
- (2) シンビンの時間は10分間とし、ハーフタイムの時間は含まれない。
- (3) 同一シーズンの公式試合において、累積3回目のシンビンが適用された選手は、そのまま退場となり、また、次の1試合は自動的に出場停止となる。（累積回数は各地域大会、国体、その他の公式試合から通算されるので注意すること）
- (4) 同一試合で2回目のシンビンを受けた選手はそのまま退場となり、ゲームに再

出場することは出来ない。また、次の1試合は自動的に出場停止となる。

- (5) フロントローの一人が退場もしくはシンビンとなった場合、当該チームの指名された全ての選手の中にフロントローがいなくなれば、レフリーはノンコンテスタスクラムを命ずる。この場合、交替するフロントローが訓練され適切であるかどうかを判断し、またいるかどうかを決定するのはレフリー責任においてではなく、チームの責任においてである。
- (6) 入替で退出した選手であっても、フロントローとしてそのポジションのスクラムが組める選手が他にいなかった場合には、一時交替でゲームに再出場することが出来る。
- (7) シンビンで一時的退出していた選手が戻ってきた時点で、一時的交替のフロントロー選手とその交替した選手は、元に戻る。(この一時的交替は、入替に数えない)
- (8) 累積シンビン退場以外の事由(不行跡等)で退場となった選手は「退場を命ぜられたプレイヤーの措置」に基づいて、大会規律委員会で処分を決定する。

4. 90分前受付

- (1) 試合当日、試合責任者は遅くともキックオフ90分前までに大会本部で「チーム受付」を済ませ、「スタッフ/メンバー表」を提出する。
- (2) 大会本部より当日の必要な伝達を行うので、代理の者ではなく、必ず試合責任者本人が出向くこと。
- (3) 「スタッフ/メンバー表」はその場で記載するのではなく、完成されたものを準備し、提出すること。

5. 80分前「プレマッチ・ミーティング」

- (1) キックオフ80分前に「プレマッチ・ミーティング」を行う。この時点で到着していない選手(リザーブ含む)、スタッフは大会へ出場できない。
- (2) 80分前プレマッチ・ミーティングの出席者は以下とする。
 - ①試合責任者 ②主将 ③交替指示者 ④セーフティーアシスタント
 - ⑤記録係 ⑥ボール係 ⑦水係(3名以内)
 - ⑧チームドクター(いるチームのみ)
- (3) プレマッチ・ミーティング終了後、出場選手全員(リザーブ含む)の本人確認とドレスチェック・装着具のチェックを当番チームから行い、続けて相手チームが行う。
- (4) 各チームのセーフティーアシスタントは認定証を持参し確認を受けなければならない。
- (5) 各チームの記録係は、キックオフ15分前までに記録席に着席し、公式記録用紙を記入すること。筆記用具は各自、準備すること。
- (6) 試合球(予備球を含めて4個)は各チーム2個ずつ準備すること。試合球はプレマッチ・ミーティングで内圧チェックを受け、本部に提出すること。
- (7) プレマッチ・ミーティング時点で選手が15名に満たない場合は不戦敗とする。

6. 競技時・ハーフタイム時の諸注意

- (1) 試合中チーム関係者は所定の場所に着席し、うろうろしないこと。ゲームの進行とともにタッチサイドを移動して応援したり、指示の声を出したりしないこと。
- (2) リザーブ選手は上着、トラックスーツを着用するなど、必ず競技中の選手と見分けがつく服装をすること。
- (3) グランド内にチームベンチが設けられた場合、ベンチに入れるのは最大15名とする。 リザーブ7名・監督（またはコーチ）・試合責任者・交替指示者・セーフティーアシスタント・水係3名・チームドクター
- (4) 本大会のハーフタイムは基本的に5分以内とする。ハーフタイム時の選手（リザーブ選手を含む）の休息地点は、5メートル・ラインより内側とする。水・その他の持ち込みは、水係が5メートル・ラインより内側のプレーヤーの所に持って入ること。うがいした口の中の水やレモンかす、チリ紙等はグラウンドへ捨てないように留意すること。
- (5) ハーフタイム時、フィールド・オブ・プレーに入ることの出来る監督ないしコーチは、1名のみとする。（競技規則第6条C2を準用）
- (6) 当番チームの水係は、レフリーへ水、その他を持って行くこと。
- (7) グランドに水を持ち込む場合には安全な容器を用いること。（ビン類不可）
- (8) 芝生グラウンドの場合は、必ずキックティを用いること。キックティは試合前に競技補助スタッフに預けておくこと。
- (9) キックオフ前、ノーサイド後の整列は行わない。

7. 安全対策、脳震盪の報告義務、その他

- (1) 大会参加に当たっては、あらかじめ健康診断を受診する等、プレーヤーの健康管理に充分配慮すること。特に、過去に頭部外傷や脳震盪を起こしたことがある者は、必ず脳波検査、CT等の検査を受診させること。
- (2) グランドで明らかな頭部打撲を認め、その受傷時に応答（意識状態）の異常、あるいは、身体活動の異常が認められるものは、すべて競技規則にいう「脳震盪」に該当するものと考えて退場させる。試合中に脳震盪で退場したプレーヤーが出た場合には、チーム責任者は所定の用紙によって報告の義務がある。
- (3) 脳震盪を起こした疑いのある、または、脳震盪と診断された選手は、必ず「IRB脳震盪ガイドライン」にある「段階的競技復帰プロトコル（G RTP）」に従って復帰すること。
- (4) セカンド・インパクト（過去の頭部打撲が後日発症）による重症事故の事例が報告されている。各自、各チームは「安全」が第1優先順位であることを銘記する。
- (5) 日本協会の「競技者個人登録（登録者傷害見舞金制度）」、及び「スポーツ安全保険」の加入手続きに、漏れのないよう充分注意されたい。
- (6) 保険証のコピー、選手の緊急連絡先等は、きちんと管理しておくこと

8. 試合中における雷発生時の大会運営方針に関して

定義：試合中とは、キックオフの時間からゲームが終了するまでの時間を指す
雷とは、光の強弱および音の大きさを問わない
気象情報とは、気象庁から発表される情報を指す

- (1) 試合中に、雷の音が聞こえたら直に試合を中断を検討する。その際、「中断」の判断は当日の担当の関西協会クラブ委員が開催地担当者と気象情報を確認し相談の上判断する
- (2) 「中断」の時間は30分未満とする
- (3) 「中断」中に雷が鳴り止んだと判断される場合は、関西協会担当のクラブ委員および当日の担当レフリー及び開催地担当者と相談の上、「再開する」かを検討する。再開する場合は、中断時にボールを保持していたチームからの再キックオフで再開する。試合時間は中断時の時間から再開するが会場の都合により試合時間を短縮する事がある。その際には、再開時に各チームのキャプテンおよび代表者に試合時間を通知する
- (4) 3の場合に因らず、30分以上中断した場合は以下の方法で勝者を決定する
 - 4- 1 中断時の残り試合時間が30分未満の場合は、その時点の得点を有効とする
 - 4- 2 中断時の残り試合時間が30分以上の場合は、中断時のホーム側とビジター側の得点差が20点以上の有る場合はその得点を有効とする
 - 4- 3 4- 1 および4- 2の条件に当てはまらない場合は、抽選にて勝者を決定する
- (5) 再度、中断した場合は(4)以降を適用する

プレーヤーの服装・ジャージの規定・ラグビーマナー

1. 服装の統一

- (1) ジャージ、パンツ、ストッキングは、チーム全員統一されていること。不統一の選手、その他服装規定に反した選手は出場できない。
- (2) パンツのスリットライン、ストッキングの折り返しの不統一は認めない。チームマークのついたパンツを着用するチームは、全員が統一されていること。
- (3) スパイク／固定式のスタッド（一体形成型ゴム底のもの）であれば、鋭い形状の部分や鋭く隆起している部分がない限り、イボ状またはブレードタイプのもの着用の着用を認める。取り外し式スタッドの場合には、ブレードタイプの着用は認めない。
- (4) アンダーシャツ／着用する場合にはジャージと同系色か、白、黒または紺色で無地のものに限る。色は単色とし、チームで統一することが望ましい。
- (5) アンダーパンツ（スパッツ）／パンツより長いスパッツを着用する場合は、パンツと同色の物、または白、黒、紺色で無地のものに限る。タイツタイプのア

ンダーパンツは着用できない。

- (6) サポーター類（膝・肘等）／着用する場合にはパンツと同色の物、または白、黒、紺色のものに限る。
- (7) サポーター類を装用しなければならない程度にケガが完治していない場合には試合出場を避けること。
- (8) ヘッドギア（ヘッドキャップ）、ショルダーパット／色規制はないが、＜IRBマーク＞の付いたもの以外は着用できない。ドレスチェックは型番などではなく、＜IRBマーク＞の有無のみで判断する。
- (9) ジャージその他の用具に血液が付着した場合には、直に取り替えなければならない。ジャージの損傷、血液の付着に対処するためスペアージャージ（無番号で可）を準備すること。

2. ジャージのデザイン

- (1) 各チームは、ファーストジャージの他に、セカンドジャージ（いずれも背番号等の欠番のないもの一式）を準備すること。
- (2) ジャージには背番号を表示する。1～15番は先発メンバーとし、16～22番をリザーブメンバーが着用する。基本的には、フッカーのリザーブは16番、もう一方のフロントローのリザーブは17番とする。その他のリザーブは18番から22番とし、フォワードからバックスへと背番号を付けるものとする。
- (3) ジャージに胸マークを入れる場合には、全員が統一されていること。不統一なものや、取れたもの等、一切認めない。また、破れやほころびは補修し洗濯された清潔なものであること。
- (4) 背番号を縫い付けた場合には、四隅だけでなくしっかりとジャージに縫い付けて、試合中取れないようにすること。また、縫い付けとプリントの混在は認めない。
- (5) 広告の入ったジャージ、パンツ、トラックスーツ等を着用する場合には、チームから競技場に対して広告料を支払う義務が生ずる場合があることを、あらかじめ承知置き頂きたい。
- (6) 詳細は、関西ラグビーフットボール協会年鑑内のプレーヤーの服装に関する規定、通達を参照のこと。

3. プレーヤーの着こなし

- (1) 参加選手は全国のラグーマンの代表としてふさわしい服装、身だしなみを心がける。
- (2) 選手は以下の着こなしを遵守すること。レフリーや競技委員から指摘される前に、各自、各チームで正すこと。
 - ① ストッキングはきちんと上げる。試合中にずり落ちないようにテープ等できちんと止めること。
 - ② パンツの上に出たジャージは、常に注意してパンツの中に入れる。
 - ③ ジャージのエリを内側へ折り込まない。

- ④ジャージのソデを極端にたくし上げたり、テープで止めたりしない。
- (3) プレマッチミーティング後に、レフリー及び競技委員がドレスチェック（服装、スタッド等の検査）を行う。選手は、レフリーと競技委員の指示に従うこと。
- (4) ドレスチェックで不許可となったものを競技区域で着用していた場合には、その時点で「競技規則」第4条5（C）により退場となる。
- (5) 服装規定に関して不明な点は事前に大会実行委員会まで問い合わせをする等、当日のドレスチェックの際にトラブルが起きないように、事前の徹底、再確認を充分しておくこと。

4・ラグビーマナー

- (1) レフリーへの批判、選手への感情的発言・暴言・セルフジャッジ…等々、非紳士的行為と言動は厳禁する。選手以外の監督・コーチ・その他スタッフ、応援団も同様に禁ずる。試合中は静かにプレーし、観戦する。この日グラウンドに集まった全てのラグビー仲間への敬意と尊敬の念を忘れないこと。
- (2) 開会式・代表者会議への往復など、本大会の行事にはスポーツマンらしい服装で臨むこと。
- (3) 選手はなるべく公共交通期間を利用して来場し、往復途上の事故等による遅れのないように心がける。
- (4) 会場への往復途上のジャージ姿、サンダル履き等は厳禁する。必ずスポーツマンらしい服装にて来場のこと。
- (5) 会場への往復の際、ボール、やかん、空気入れ等の用具類は、ムキ出しで持ち運ばないこと。
- (6) 更衣は定められた場所で行い、また、ロッカーエリア外には裸体で出てはならない。更衣室の後始末は、各チームで責任を持ってきちんと行うこと。たとえ自チームが汚したものでない場合でも清掃し、清潔保持に努めること。
- (7) 大会会場（グラウンド内、更衣室とグラウンドとの往復等を含む）では裸体で歩かないこと。公共空間でのマナー保持には充分注意すること。
- (8) ゴミ（グラウンド内ばかりでなく更衣室のゴミも含む）は、会場内のゴミ箱に捨てず、必ず各自、各チームで持ちかえること。チームはゴミ袋を用意し、全てのゴミを持ちかえること。
- (9) 会場内は、グラウンド、更衣室、交歓会会場、駐車場、その周辺区域を含めて全面禁煙とする。（競技場における指定許可場所を除く）特にジャージ姿のままでの喫煙は厳禁する。
- (10) チームのミーティングは、アフターマッチミーティング、交歓会等の公式行事が終了してから行うこと。

セーフティーアシスタント・水係

- (1) 各チームは有資格のセーフティーアシスタント（認定証を持参）を必ず帯同して用意すること。リザーブ選手、スタッフとの兼任を禁ずる。無線機を使用する場合には必ず周波数を大会本部に申告し、レフリーと混信が生じないように注意すること。
- (2) 試合前にレフリー、タッチジャッジ、マッチドクター等と十分な打ち合わせをし、負傷者発生の場合でゲームの中断を求める場合に備えてレフリー及び大会役員と「シグナル」の確認を行い、適切な行動がとれること。
- (3) セーフティーアシスタントの他に水係（3名以内）がグラウンドに入ることができる。
無線機を使用する場合には必ず周波数を大会本部に申告し、レフリーと混信が生じないように注意すること。
- (4) セーフティーアシスタント、水係は、自チームの応援をしたり、指示の声をを出したりしてはならない。コーチが兼任することを禁ずる。コーチとは登録上のコーチならびにコーチングスタッフ全員を指し、彼らの指示を伝達する者も含まれる。これらの不行跡は、競技区域からの退場の対象となる。
- (5) セーフティーアシスタント、水係は、自チーム、相手チームのジャージと区別できる色のビブスを準備し、着用しなければならない。

当番チームの役割／ジャージが同系色の場合の措置

- (1) 当番チームの役割／当番チームは、相手チームと連絡を取り合い、試合の1週間前までに、レフリーに確認の連絡を入れること。連絡事項は、期日、キックオフ時間、場所の他に、当日両チームが着用するジャージの色を必ず通知すること。
- (2) アフターマッチファンクションを行う場合、当番チームが司会進行に責任を持つこと。
- (3) ジャージが類似した場合／ジャージが同系色の場合には、以下の順序で着用するジャージを決定する。チーム間で勝手に決めないこと。
 - ①ファーストジャージが類似した場合には、両チームともセカンドジャージ。
 - ②セカンドジャージが類似した場合には、ホームチームがセカンドジャージ、ビジターチームがファーストジャージ。
 - ③それでも類似した場合には、ホームチームがファーストジャージ、ビジターチームがセカンドジャージ。
 - ④それでも決まらない場合には、大会実行委員会が指定した方法で決める。
- (4) 両チームで話し合ったジャージ色は、必ず大会本部の承認を得ること。